



●ガバナー 長嶺 康廣 ● 会長 吉田 立盛 ● 幹事 平光 清美 ● コミュニケーション委員長 三浦 晃

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/

Facebook ページに「いいね！👍」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2016/

第 2013 回 例会 記録

《社会奉仕委員会担当例会》

2017 年 3 月 9 日 (木)

点鐘 12：30

レポート No. 1445



桜田 S A A

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



《会長要件》吉田立盛会長



今日の例会は社会奉仕委員会担当例会です。今日は田口会員のお話が聞けると朝から楽しみにしていました。よろしくお祈りします。

先週例会の後に、当クラブのホームページをリニューアルしたいと思いつく保田会員の所へ平光幹事と行って来ました。今のホームページはスマートフォンでは見づらいものですから、クラブとロータリーの公共イメージの向上、ホームページを見て若い会員が入ってきやすいような窓口を作るため相談しながら進めています。インタラクティブの皆さんとの活動や奉仕活動を行っている写真が前面に出るような形にしたいと思います。

《本人誕生日》



下田会員

《奥様誕生日》



松田会員

《幹事報告》平光幹事



レターボックスに 4 月から 6 月までの例会変更のプリントを入れています。
・西村会員より米山に寄付をいただきました。ありがとうございました。

《ニコニコボックス》西尾委員

吉田立盛会長：田口さん今日はよろしくお祈りします。

平光幹事：田口会員、よろしくお祈りします。

鈴木会員：田口さん、本日の卓話 3, 9 (サンキュー)

清川会員：田口会員、本日はよろしくお祈り致します。



《出席報告》原委員長



正会員数 41 名。本日の出席は免除会員 4 名を含む 27 名。出席率は 73% です。前々回の例会は、ロータリー創立記念日例会で出席率 71% でした。

西村会員：田口さんの卓話、楽しみです。

本人誕生日：下田会員

《社会奉仕委員会》清川委員長



社会奉仕委員会の清川です、本日は田口会員からお話をさせていただくことになりました。今日は楽しいお話が聞けると思っていますので、楽しみにしていただきたいのですが、その前に、4 月 30 日に蕪嶋清掃を行うことになりました。時間は 11 時です。本当は 29 日にしたかったのですが八高のインタラクティブの生徒さんが出校日の為時間が取れず 30 日になりました。皆様のご理解を得て、多くの参加できれいな海岸にしたいと思いますのでご参加をお願いします。それでは田口会員よろしくお祈りします。

《会員卓話》田口会員

先日平光幹事さんがわざわざ家に見えまして 9 日空いていますかというので予定を見ましたらたまたま今日だけ空いていました。サボってばかりいる不名誉会員なものですからあまり来たくはなかったのですが、同級生の久保田君の指名もありどうしてもということでまいりました。今日は私の得意範囲の和尚さんの話をしたいと思います。

色々和尚さんはいますけれども、さんづけで呼ばれたのは一休さんと良寛さんです。一休さんはうちの臨濟宗の和尚さんで京都の大徳寺の住職をしたこともあります、良寛さんは曹洞宗ですけれども、やっぱり親しまれました。我々も親鸞さんとか道元さんとはなかなか呼ばないですね。今日は得意範囲の



一休さんについてお話ししたいと思います。一休さんは室町時代、後小松天皇のご落胤だったといわれています。天皇家にいるといろいろと跡継ぎ問題などで命を狙われることもありますので生まれてすぐに母親と遠くの方へ逃げて育ったそうです。一休さんは6歳で出家して88歳まで生きました。あの当時の88歳と言ったら化け物ですよ、あの時代に88歳まで生きた大変な人物だと思っています。

私は京都の大学へ行ったときに一休さんばかり研究してまして、好きというか理想の和尚さんです。ただ、口は悪いし好色で色々な話があります。あれだけ悟りを開いたお坊さんがというような話もいっぱいありますが、その辺は少し隠してお話しします。室町時代と言いますと足利文化と申しまして金閣寺、銀閣寺などが出来た三代將軍足利義満の時代です。生まれたのは丁度そのころで、その当時の和尚さんといえば天皇家やお公家さんをお願いして、お寺建ててくれ、お寺建ててくれと、そればかりで修業も何もしなかったのです。6歳で坊さんになりました一休さんはそういうのが嫌いで、なんで修業しないんだと、足利文化というのは五山文学と言って色んなものが残っていますが、和尚さんは文学ばかりやってあまり修行をしなかった。一休さんはそれを非難して、その後自由奔放に生きた方です。

一休さんというのは25歳くらいでもらった名前です、一休宗純と言います。皆さんがテレビや漫画で良く知っている一休さんは江戸時代に作られた一休話というものから出ています。あまりにも伝説的な和尚さんなので、いいように面白いように作られていて、その関係でどうしても我々は普段一休さんというと、頓智の一休さんだと、一休話の一休さんを思い浮かべますが、私たちが習ったころは室町時代、丁度一休さんが死んだ頃の狂雲集という本がありまして、全部漢文で七言絶句です。6歳で出家して13歳の時には漢詩を習ってましてその作品が残っています1,060首くらい残っています。例えば一休さんは当時日本で一番だといわれていまして、京都中の和尚さんに、あの野郎、あの野郎と思われていました。一休さんが比叡山に呼ばれてお昼を御馳走になり帰るときに、一休さんは字もうまいので一筆書いてもらいたいとお願いされました。今でもお堂に残っていますが、障子紙みたいのをお堂から麓までずうっと4キロくらい流して、これに一字書いてもらいたいと、困らせようと思ったのでしょうか、和尚さん方が生意気だから少しいじめてやろうとしたのでしょうか、わかりましたと、筆と墨を用意させてずうっと下まで4キロ引いて行って最後だけちょっとまげて、し、という字ですという有名な言葉が残っています。その他には、一休さんはいろいろな方と付き合いが多く、ある商家の方で皮袴をはいた人がいまして、その人に皮を身に着けるのは駄目だ、罰が当たると言いました、皆さんもご存じのようにお葬式に行くときには、皮のコートはやめた方がいいです。先日葬儀屋さんがお墓をやっているときに皮のコートを着ていたのです、だめだぞと言ったら、みんなで何故ですかと言っていました、皮はやっぱり殺生なので、動物を殺して使っているのです、あくまでも木綿とか絹とかで、女性の方はハン

ドバックもお葬式の時は皮は駄目です。商家の旦那さんに皮袴はしていると罰が当たると言ったところ、その旦那さんもなかなか頭が切れまして、お寺では太鼓を使っているじゃないかと言ったところ、一休さんはだから朝、昼、晩、叩いているじゃないか、バチが当たっているとやり返しました。バチというのは太鼓をたたく棒のことですが、そうしたらその旦那さんは、あの野郎と、この旦那さんの家の前には川があり橋を渡らなければ行けないのですが、一休さんお昼を食べに来てくださいと誘いました。(有名な、この橋わたるべからずの話)旦那さんはまたやられた、その後一休さんを非常に尊敬したということです。橋でなくはしとひらがなで書いてあったのでしょうか。

一休さんが小僧のころの話です。和尚さんに本堂のろうそくを消して来いと言われて、消してきました。どうやって消したと聞かれ、息でふっと消したと答えたところ、馬鹿野郎、汚れた空気をかけるなと怒られました。翌朝、みんなが前を向いてお経をあげているときに、1人だけ背中を向けていました。なんで背中を向けてお経をあげているんだと怒られたので、昨日和尚さんに汚れた空気をかけるなと言われたのでこっちを向いていましたと答えたところ、お経はこっちを向いていいんだと、そのような逸話がたくさん残っています。

私が一休さんをなぜ好きかと言いますと、88歳になって死ぬときに遊女に抱かれて死ぬんですね、当時京都で一番の遊女と言われていましたが、盲の美人の遊女と書いてありますので、目が見えなかったみたいですが凄いきれいだったみたいです、当代一だと言われていた。一休さんは和尚さんのくせに遊女と遊んだり、いろんなことをして最後に息を引き取るときに、京都で一番の、今でいう舞妓さんに抱かれて死ぬんです、理想でしょう、病院で管だらけで死ぬよりも、死に方としては理想だと思っています。一休さんは室的時代にも有名でしたが江戸時代になって伝説的に有名になりました。先ほどの話も全部一休話という本の中に書いてあります。

一休骸骨という本がありまして、どんなに威張っても何をしても中身は骸骨だということが書いてあります。お正月にはお墓から掘ってきた骸骨を杖にさして、ご用心、ご用心と、本の中に有名な「門松は 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」とあるように、正月に皆さん明けましておめでとうと言っていますが、一つ年を取っているわけですから、あの世に一步近づいているんですよ、行く末は骸骨ですよと、杖に骸骨をつけて回っていました。昔京都では元旦には玄關を開けない、一休さんが来るからと、今でも風習が残っているくらいです。

一休さんは風狂の人と言われますが、非常に頭もいいし、漢詩も得意だし、何でもかんでもした人です。文化、詩歌、能楽、庭園などみんなそのころにできた時代ですが、一休さんはそういうのにすべて反抗したというか、好色と言いますかエロチックな話がたくさん残っています。死ぬときは琵琶湖のほとりの酬恩庵という所で遊女に抱かれて死にました。一休さんの書いている文章は非常に面白くて、それで

私は一休さんが好きなのです。

これも有名な話ですが（和尚さんが大事にしていた水あめを頭からかぶった話）これも江戸時代に書かれた一休話です。我々が普段知っているのは一休さんが亡くなって200年ほどたってから書かれたものです。一休さんは頭もよく自由奔放に生きた方で、当時の和尚さん方にも反発し、武士階級にも反発して、真っ赤な鞘の刀を差して京都中を歩きました。当時は武士も和尚さん方もたるんでいたのが気合を入れるんだ、風を起こすんだと、先ほど言いました狂雲です。私がこの世界を変えるんだと、そういうのがいろんな形の文章になって、漢詩として残っています。

当時一休さんは日本で一番の坊さんだと言われ、京都の大徳寺というお寺に入りましたが、たった三日で住職をやめました。三日坊主というのはここからきています。たった三日で、こんなところにいてもしょうがない、みんなたるんでいる、何故かというとお寺を建てたいばかりに、寄付をお願いしますと偉い人に媚びを売るような和尚さんが多くて、修業をさっぱりしないというのがあったんですね、一休さんは自由に生きたと申しますか、何をやるにしても自分の考え、面白い考えでやりましたが、その話が今言ったように江戸時代にいろんな物語になって残っています。

一休さんは私のあこがれのお坊さんです。中国の書物を全部読んで勉強したみたいで、残されている四行の漢文、七言絶句ですけれども解釈するのが非常に難しい、一つ一つに意味が深く大変です。一休さんは非常に優秀なお坊さんで沢山の本を残していますが前に言ったように、後小松天皇のご落胤と

いうこともあり、あまり世間に出ないように名前をだいぶ変えています。生まれてすぐは千菊丸といいます。その後、周建で25歳で一休さんになり、70歳のころには応仁の乱があり京都は全滅しましたがその後も生きて、先ほど言いましたように88歳で亡くなります。私は71歳になりましたが88歳までは生きられないと思います。皆さんはどうですか、昨日の講演の中で終活の話になり皆さんに死んだら地獄と極楽どっちに行きたいですかと聞いたところ、皆さん極楽に行きたいと答えましたが残念ながら皆さん地獄に行きます。和尚さんは修業もして、勉強もしてお経も上げているのだから極楽へ行くような気がしますが、私も地獄ですからご安心ください。行きたくはありませんが地獄です。一休さんもそうですし、我々和尚さんが死ぬのを遷化と言います。都が遷る、遷に化けると書きます。遷化というのはこの世からあの世へ行くだけだと、我々はそうですが、皆さんは地獄です。今日も先ほど刺身を食べましたが殺生しているのだから間違いなく地獄です。一休さんはそういうことが分かっていたからああいうことをやったのだと思います。私が一番好きな漢文に「美人小水」というのがあります。七言絶句で書いてありますが、要するに人間みんなおんなじだという意味だと思いますが、非常に面白いことが書かれており、私が一休さんに入る一番の切っ掛けになったものです。

いろいろお話ししましたが、今言ったみたいに自由奔放で非常にエロチックで、何でもかんでもやった人です。私は寺の坊主ですが、一休さんはどっちなかという非常に理想のお坊さんでございます。